平成 24 年 1 月 1 日

きねん

ＫＫＲ広島記念病院広報誌
第 21 号
発行所〒７３０－０８０２
広島市中区本川町１-４-３
国家公務員共済組合連合会
広 島 記 念 病 院
℡(０８２)２９２－１２７１

http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org

年　頭　所　感

院長　中井　志郎

新年明けましておめでとうございます。皆様には良い年をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、東北地方の大震災、原発事故、台風による豪雨災害、さらにヨーロッパの金融危機による円高と、日本の経済にも大打撃の中、年越しとなりました。暗い話題の多い中、なでしこ JAPAN がアジア勢の代表チームとして 2011 年 FIFA 女子ワールドカップで、初優勝を成し遂げる快挙もありました。チーム全体の成果のために、それぞれの選手が、今自分には何ができるのか考え、きっちりと実行した結果が今回の優勝に繋がる、まさにチーム力の強さが、世界一を呼び込んだと言えます。

今年は干支の「壬辰（みずのえたつ）」にあたります。朝日が光を増し、何物かが生まれようとする状態です。「辰」は陽気が動き、草木の形が整って、活力が旺盛で万物が勢いよく伸び、十干の「壬」は変化と流動性を意味し、陽と陰が相交わる年といわれます。

平成 24 年度の目標は、昨年度に引き続き、

１）良質な医療の提供
２）地域支援病院として地域医療への貢献
３）ネットワークの活用（インターネットを通して病診連携を充実）

といたします。

より具体的な行動に移す為、質の高い「チーム医療」を目指します。
「チーム医療」とは、それぞれの職種が専門分野のみを行うことではありません。目標とするミッションや情報をメンバーが共有し、専門性を核としながら、自分が何をどうすれば良いかを考え、周りと調整しながら行動をすることです。

医療の現場では、常に「スキマ」が発生します。各人が決められた役割をこなすだけではなく、とっさに気を利かせ、「自分から配慮する」、「言われなくても工夫する」ことが

大切です。またカンファレンス等で情報共有を行い、提案することで、当然とされた手順や分担を見直し、より効果のある医療サービスを行うことが可能となります。

よりシームレスな「チーム医療」とは何かを考えながら、これまで以上にきめ細やかな医療の提供を行っていく所存ですので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。本年が皆様にとって、良い年である事を祈念致します。

記念寿ホームページ開設のお知らせ

記念寿　事務　早川　正紀

平成 12 年 4 月に開設された介護老人保健施設　記念寿も 13 年目を迎えようとしています。

「社会適応(復帰)に向けて、心身の自立を支援すると共に、健やかに、美しく、安らぎのある生活を実現するために心温まる介護を提供する」の理念の下、職員一丸となって理念実現に努力している毎日です。

私も昨年２月から記念寿の仕事に携わり、老齢化社会の現実にとまどうばかりです。老老介護で疲れている家族、帰りたくとも介護をしてくれる家族がいない、１人では生活を維持していくのが困難、在宅では介護が不可能、次の施設を検討してくださいと言われたが、どこでどのような施設がよいのか。

遠くに住むご家族が広島に住む親のことを心配して電話をかけてこられたこともあります。

「そちらでは待機期間はどれくらいでいすか」
「どうすれば利用できますか」
「次を捜せと言われたのですが」
よく聞かれる言葉です。
ご家族の方はどうしてよいのか分からずに不安がいっぱいなのです。

訪問介護・看護、訪問リハビリ、通所介護・リハビリ、特定施設入居者生活介護(有料老人・軽費老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、適合高専賃、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型生活介護、特養等、それぞれがどう違うのか、どの施設が利用可能なのか、利用料金はどれくらい必要なのか、いつごろ利用できるのか、施設ではどのようなことをして過ごすのか、不安なことが多々あることと思います。そのようなご家族の皆様の情報の糸口になれればと思い、介護老人保健施設　記念寿のホームページを開設いたしました。ご家族様の不安を取り除く一助になれれば幸いです。

今後もホームページの更新に努め、わかり易いホームページを目指します。医療・福祉・

介護関係の皆様のアクセスもお待ちしております。

広島記念病院　介護老人保健施設
記念寿 URL
http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org/kanren/kinenjyu/index.htm

広島記念病院での産婦人科研修を終えて

呉共済病院研修医　木村　次郎

私は小児科・小児外科志望であり、産科は関連があるため以前より興味はありました。人が生まれて母・子が幸せそうに帰っていく、こんなにやりがいのある科も他にないのではないかと思っていました。1 ヶ月の研修を終えてその考えは変化していませんが、母となる女性のたくましさと子供が胎内から生まれてくる神秘など、教科書では教えてもらえない体験を数多くできました。

自分の研修内容を振返ると、はじめは特になかなか積極的になれなかったと思います。興味はあるので何でもやってみたいという気持ちはいつもありましたが、産婦人科という女性のみの病棟・外来という特殊性、女性看護師の立会いが必要ということから、遠慮していた部分はありました。これらは反省すべきところであったと思いますが、改善して次に生かしていきたいと思います。

しかし、今回の研修にて産婦人科の外来の様子、手術の形式、基本的診察、基本的手技を一通りは学べたのではないかと思っています。特に印象に残っているのは、母の胎内より生まれてくる新生児をとりあげさせてもらえたときでした。母親からの出血量の多さ、新生児の生気、胎盤の感触と重さなどは実際体験してみないと全く分からないのではないかと感じております。

産婦人科の先生方、病棟の看護師の方々からは本当に多くのことを学びましたし、仲良くしていただき非常に有り難く思っております。自分がもっと知識と経験があって、先生・看護師の方々の力になれたらもっと良かったです。ですから、ここで学んだことをしっかり記憶に残して次に生かしたいです。

最後に、院長先生・横田先生・中野先生・羽原先生をはじめ、病棟・外来の看護師の方々、事務の方々にはわざわざ他院の私を快く受け入れてくださって、本当にありがとうございました。貴重な研修期間となりました。

「地域看護連携セミナー」報告

9 月地域医療従事者研修会

「看護連携による“顔が見える”関係作り」

講師　：倉敷中央病院　黒瀬正子看護部長
日時　：平成 23 年 9 月 21 日　18:00～19:30
対象　：当院の職員および地域の医療従事者
参加者：88 名（院外参加者 58 名）

目的　1. 地域医療の実践活動から看護部門が積極的に連携することの意義を学ぶ。
2. 将来に向けた看護ネットワークの足がかりとなる。
3. 地域医療施設の病院看護部門間の、顔と顔が見える積極的な連携を学ぶ。

このたびは、「切れ目なく質の高い地域医療のために看護師の交流、顔が見える関係」を実践されている、倉敷中央病院の看護部長である黒瀬正子先生にお願いしました。先生はすでに８年半前から、看護部門の情報共有を目的とした「看護連携を奨める会」を立ち上げられ、看護師同士が看護実務について話合える体制をつくられてきました。広島でも、顔と顔が見える看護部門間の積極的な連携の動機付けとなればと思って企画しました。

院外参加者が 58 名と多く、講義のあとのグループワークでは、活発な意見交換が行われました。アンケート結果から、「病病連携をとるのに顔を見ながら信頼関係を造ること

グループワークでは、狭い中、活発な意見交換が行われました。

講義風景です。皆さん、とても熱心に耳を傾けていました。

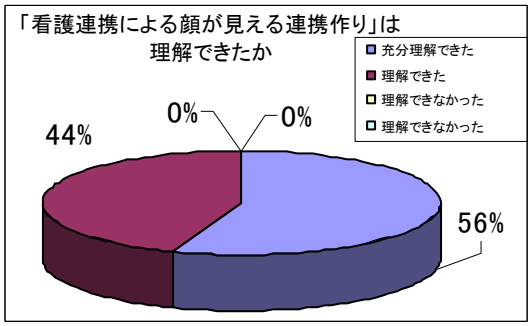
が大切だと思った」「転院先の病院について知っているということ。それが患者不安の軽減やスムーズな退院支援に繋がるということがわかった」「退院支援の意義を学べました」など研修内容は理解でき有効であったと考えます。

当院が今後、取り組もうとしている退院支援看護師への動機付けと、現在取り組んでいる、看護訪問の継続に向けて示唆を得ることができました。

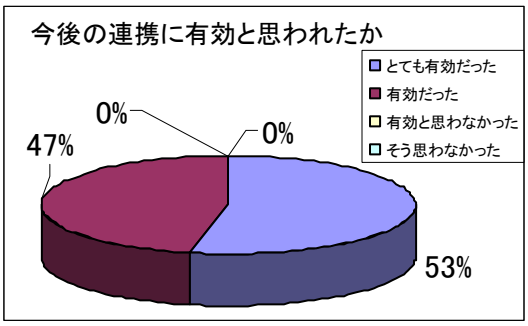
今後は、看護連携情報集の作成、看護連携を推進する会などを開催していきたいと考えています。

≪アンケート結果の一部≫

N=45



N=45



10 月地域医療従事者研修会

「無駄のない感染対策とは」

講師：広島大学病院　感染症科教授　大毛　宏喜先生
日時：平成 23 年 10 月 27 日　18:30～19:30
対象：地域の医療従事者及び当院職員
参加者：86 名（院外 36 名・院内 50 名）

テレビ・研修会等で御活躍されている、広大の大毛先生を講師にお招きして、「無駄のない感染対策とは」という題名で、講演していただきました。

これから流行する、ノロウィルス・インフルエンザ対策についても指導していただき、感染を広げないためには、とにかく「手洗い」をすること、講演の中で紹介して頂いた「パキスタンのカラチにおいて 15 歳以下の幼児・小児の健康に対する手洗いの効果」というレクチャーで、手洗いの指導を行った家族には上気道炎の減少がみられとことを学び、「手洗い」の有効性について改めて考えさせて頂きました。理解しているが確実に出来ていない「手洗い」これからいろんな感染症が流行る季節です。みんなで気を付けて行きましょう。

11 月地域医療従事者研修会

「総合科とは」

日　時：H23 年 11 月 24 日（木）18：30～19：30
テーマ：「総合科とは」
講　師：広島大学医学部地域医療システム学教授　竹内啓祐　先生
参加数：院外 11 名、院内 49 名、計 60 名

今回の地域医療従事者研修会は「総合医とは」というテーマで、お話を頂戴しました。
講師の竹内先生は自治医科大学を卒業された後、大・中・小規模病院で、救急から慢性期だけでなく在宅医療、地域の保健活動に至るまで、広範囲の医療体験をされておられます。
その豊富なご経験と知識の中から、今求められる「総合医」のお話は大変興味深かったです。中でも、広島県が北海道に次いで 2 番目に多い無医村地区であるとか、人口規模に比較した医学部定員数は実質的に静岡県と並んで全国最下位レベルだという事実には大変驚いた次第です。その問題を解決するべく、地域医療を支えていく医師たちを大学で日々育てていらっしゃる竹内先生の熱いまなざしが感じられるホットな研修会となりました。

12 月地域医療従事者研修会

「当院における褥瘡対策と継続ケア

日　時：H23 年 12 月 8 日（木）18：30～19：30
テーマ：「当院における褥瘡対策と継続ケア」
講　師：森本　純子（皮膚・排泄ケア認定看護師）

今回の研修会は院外 39 名、院内 34 名、計 73 名と、多数の参加がありました。褥瘡対策はどの病院や施設でも課題となるところであると思われ、関心の高さが伺われました。
研修内容は当院における褥瘡発生や持ち込み褥瘡件数の報告､院内発生の褥瘡に対するサーベイランス結果の報告､持ち込み褥瘡に対して当院で行ったケアの紹介など多岐に渡っていました。
興味深かったのは､院内で褥瘡発生した患者様の約 7 割には体圧分散マットレスが使用されていたことです｡このことから､体圧分散マットレスを使用して安心するのではなく､その患者様に適したマットレスが選択できているか､摩擦やズレがないか等､日々アセス

メントしていくことの重要性を感じました。
　当院は急性期病院であり、褥瘡が治癒する前に退院や転院に至ることもあります（持ち出し褥瘡）。今回の研修の中で、退院前にケアマネージャーや訪問看護師、介護福祉士等、多職種に集まっていただいてカンファレンスを行った事例の紹介がありましたが、これから当院ではこのような事例が増えていくのではないかと予想されます。継続したケアを行っていくには病院・施設・在宅の連携が重要で、どこにいても適切なケアが受けられるようなシステム作りをしていく必要があると感じました。

第 14 回がん疾患関連セミナー

「がん化学療法中の看護とケアの実際」

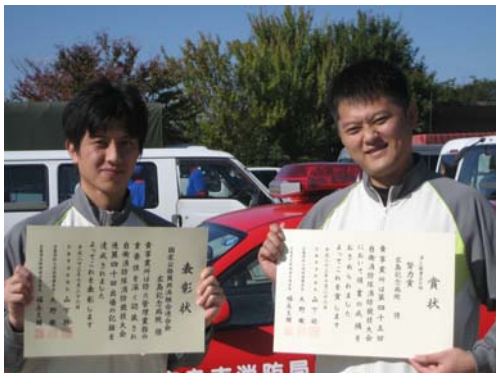
講師：呉共済病院　がん化学療法看護認定看護師　一箭　美智栄さん
日時：平成 23 年 12 月 15 日　18:30～19:30
対象：地域の医療従事者及び当院職員
参加者：57 名（院外 13 名・院内 44 名）

今回のがん疾患関連セミナーでは、近年症例が急激に増加している化学療法を取り上げ、がん化学療法認定看護師であり、呉共済病院の化学療法室で日々勤務されている一箭美智栄さんにご講演いただきました。
　講演では、「がん化学療法における看護師の役割」「がん化学療法看護のケアと実際」主軸に、化学療法とは看護師が治療に直接関わるため『治療を管理する』という視点を持つことが必要である事、抗癌剤を安全に投与する為には患者を知り・抗癌剤を知り、安全な

取り扱いについて知ることが必要で、そのためにはどのようなことに注意すべきかということについて、詳細にお話をしてくださいました。
　お話の中から、高い専門性を持って日々の業務に取り組んでおられる姿がうかがえ、参加した看護職の皆さんも多いに刺激を受けられたようでした。

『第 45 回自衛消防隊消防競技大会』

医事課　千代延　篤志



　平成 23 年 10 月 26 日(水)、広島県消防学校で自衛消防隊消防競技大会が開催されました。
この大会は 45 回目を迎えましたが、当院は 40 回目の参加という事で、開会式で表彰されました。これは、自衛消防に対しての必要性を理解し、高い意識があったからこそ 40 回もの参加に至ったものだと感じております。
　今大会へは、野島　将(会計課)と千代延　篤志(医事課)が消化器男子の部に参加しました。消火器男子の部へは、食品業界・ガソリンスタンド・自動車製造業・ホテル業界・病院など多職種の総勢 95 チームが参加していました。
　消火器の部の競技の概要は、一人が「まと」へ放水し消火するまでのタイムと、もう一人が通報から消火器を運ぶまでのタイムの合計で競います。
　結果は、95 チーム中 6 位と見事入賞することができました。しかし、1 位とは僅か 0.8 秒差と、惜敗で非常に悔しさの残る結果ともなりました。来年はリベンジして、1 位をとりたいと思います。

　今大会に参加し、自衛消防隊の初期消火技術の向上を図ることが出来たと思います。
職場における防火管理体制を確立し、火災による人命、財産等の被害を最小限に止められる様活かせていきたいです。

広島県医師会　在北朝鮮原爆被爆者健康診断訪問

-百聞は一見にしかず？-

外科医長　藤本三喜夫

在朝被爆者との会談風景

今回の訪問は首都平壌とその周辺に限られていましたので、地方の農村の事情はまったくわかりませんでしたが、農業の不振・経済制裁・ますます広がる韓国との経済格差等を考えると、やはり国全体としては貧しいのでしょう。しかし、経済制裁が効いて平壌市民は暗い目をしているはずといった西側の希望的観測とは違い＜西側メディアはそういった情報を意図的に流したがる？＞、平壌市民の表情は明るく、物質が豊かでない中、また限られた自由の中で、粛々と仕事に励み、逞しく生活している印象でした。日本でも国全体が貧しい時代は確かにあったし、我々はその大変な時期を逞しく生き抜いた両親や祖父母の子や孫にあたる世代である事を忘れてはいけないのではないかと思います。教育の力か、国全体が貧しいからかは不明ですが、日本人が戦後の発展の陰で忘れてしまった、心から国家の発展を願う気持ちとか、親・子供・同胞を大切に思う気持ちとか大切な物が、北朝鮮にはまだ残っている感じがして、なんとなく懐かしいようなホッとした気持になりました、

ただし、見境なく将来有望な若者を拉致したり、やたらとミサイルを打ちまくるというのは狂気の沙汰としか言いようがありません。しかし、よくよく考えてみると、そこまでではないにしろ、かつての日本にも似たような時代があったのではないでしょうか。日本の生き残りを賭けたギリギリの選択であったにせよ、アメリカと日本の国力の差・国民性の違いを正確に認識しないままの軍部の暴走。さらにマスコミも教育もこれに積極的に加担。この結果、日本国民は多大な苦悩と犠牲を強いられてしまった。時代の違いあるいは政治体制の違いはあるにせよ、戦前・戦中の日本人の置かれた立場と、現在の北朝鮮国民の状況には、共通点が多いように思われてなりません。

さて、そもそも古くより朝鮮半島を介して多くの人や文化の交流があった事を考えると当然かも知れませんが、北朝鮮の人は日本人と顔も食文化も似ていて＜Asians＞、欧米滞在中に感じるような違和感はまったくありませんでした。少なくとも、価値観・人生観もCaucasians よりは近いものと考えられます。今後の北朝鮮の政治体制に不安・問題はあるものの＜まずこれが大問題なのですが＞、粛々と仕事に励み、逞しく生活する平壌市民の姿の中に、戦後の日本さらには現在の韓国・中国のようなめざましい発展の可能性を見出せたような気がしました。

金萬有病院　地域連携室

広島記念病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成 10 年 6 月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

理　　念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲　　章

1．私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2．私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3．私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4．私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

患者様の権利の尊重

◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアーを行います。
◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

地域医療連携室
ＴＥＬ　０８２（５０３）１００３
ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１０

代表　広島記念病院
ＴＥＬ　０８２（２９２）１２７１
ＦＡＸ　０８２（２９２）８１７５

庶務課
ＴＥＬ　０８２（５０３）１００１

内科・外科
ＦＡＸ　０８２（５０３）０７２２

産婦人科・小児科
ＦＡＸ　０８２（５０３）０７２３

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科
ＦＡＸ　０８２（５０３）０７３１

４病棟
ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１４

５病棟
ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１５

６病棟
ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１６

７病棟
ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１７

８病棟
ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１８